三省堂 国語教育 NEWSLETTER

ことばの学び

KOTOBA NO MANABI

LETTER 6

特集 ❁ 読書の効用

読書と国語学力

新潟大学教育学部
足立 幸子

OPENING

生徒の読書と国語学力には影響関係もしくは相関関係があることが内外の複数の調査によって示されている。ここで注目すべきことは、読書も国語学力も概念が拡大してきているということである。

二〇一二年に国立青少年教育振興機構が行った中学生・高校生に対する読書の実態調査では、フィクションだけでなく自然科学・社会科学などの多様なジャンルを対象としている。また、書籍のみならず多様な媒体で読むことや、一人で読むだけではなく他者とのコミュニケーションを含めたものを読書と捉えている。

OECDの国際学力調査PISAでは、二〇〇九年の調査以降、読解力の定義や枠組みが三点変更された。一点めは、実際に読書に携わる読書の取り組みを読解力の定義に明示したことである。二点めは、読書をする際のメタ認知を重視したことである。三点めは、コンピュータを使用した読むことを導入したことである。すなわち、意欲的・自覚的に多様な媒体のものを読むその取り組みに携わっていること自体を読解力があることとしたわけである。

この原稿を書いている二〇一四年十二月に、大学入試改革に関わる中教審答申のニュースが飛び込んできた。現行の入試が知識偏重に陥っていることを指摘し、大学入試センター試験を廃止し、「思考力」や「主体性」など受験生の能力を多面的に評価する手法に改革するという。また、教科にとらわれない合科目型・複合型評価も検討されるという。そうすると国語学力は、単に漢字や語彙を知っていて、文章が正確に読み取れることにとどまらず、他教科の学力にも資する「思考力」や「主体性」を含む幅広い概念として捉える必要がある。

拡大した読書と拡大した国語学力の相関はますます高くなっていくであろう。なぜなら、重なる部分が大きいからだ。国語学力を保障する国語の授業は拡大した意味での読書を取り入れる必要があるだろう。反対に、授業でつけた国語学力が生徒の読書にどのように生かされていくかにも目を配りながら、授業を工夫していかなければならない。

COLUMN

GUEST COLUMN

飼育係の読書体験

動物園飼育係・奥山 英登

「昆虫採集に明け暮れていたり、捨て猫・捨て犬を拾ってきて親を困らせたり、シートン動物記やファーブル昆虫記を読みあさったり、そんな幼少期を過ごしてきました。そして、大人となった今、子どもの頃からの憧れだった飼育係になり旭山動物園で働いています。」

このほうが、飼育係になるまでの物語になるだろう。しかし、自分には幼少期のそんな経験はほとんどない。そもそも子どもの頃の夢は、学校の先生になることだった。しかも、理科ではなく社会科のだ。まさか飼育係になっているなんて、昔の自分が聞いたらさぞかし驚くだろう。

これまで自分はどんな本を読んできただろうか？　中学生の頃は、当時流行していたファンタジー小説を読んだ記憶がある。高校生のときは、社会科好きもあって西村京太郎さんのトラベルミステリーや宮城谷昌光さんの歴史小説が好きだった。大学生になると、落合信彦さんのハードボイルド小説やノンフィクションも読んでいた。動物園飼育係という自分のキャリア形成にあたって、本は直接的な影響をほとんど与えていないように思えてくる。恥ずかしながらシートン動物記もファーブル昆虫記も未だに読んでいなかったりする。

言い訳にしか過ぎないが、大人、そして、飼育係になった今、なかなかじっくり本を読む時間がない。仕事上、必要とされて専門書や学術書を読むことがあっても、自分が知りたい情報を探して、その部分の前後を斜め読みすることがほとんどだ。「これは読んでおくべきだよな」という専門書も、途中で読むのに飽きてしまって、その後、本棚に入りっぱなしになっているものがいくつかある（著者の人、ゴメンナサイ）。仕事と関わりのないところで読んだ本は、司馬遼太郎さんの「竜馬がゆく」と夢枕獏さんの「神々の山嶺」の二つだけ。動物とは全く関係のない小説だ。でも、これらは本当におもしろかった。

「本はキャリア形成に直接的な影響を与えなかった」と先に述べた。しかし、本当に何の影響もなかったのだろうか？　私が読んだ本に登場してきた男たちは、みんなとってもカッコよかった。私は、そんなカッコイイ男になりきって物語を読み進め、そして読み終わる頃には「オレも、こうありたい！」と思わせられた。子どもの頃から現在に至るまで、その時その時で、そのカッコイイ男たちに少しでも近づけるよう「もっと頑張ろう！」と思わせてくれていたのが読書の時間だった。

最近は、飼育係としての頑張りが少し足りないような気がする。「時間がない」なんて言い訳はしないで、スカスカの本棚から一冊取り出してみようかな？

おくやま・ひでと
旭川市旭山動物園飼育展示係。北海道教育大学大学院を修了後、2000年より現職。エゾジカの飼育担当を経て、現在はワオキツネザルなどのサル類を担当する。学校団体や来園者に対する動物園での教育活動にも携わる。学校と動物園の教育連携や、来園者に対する教育評価などの動物園教育を研究分野としている。

ことばの学び KOTOBA NO MANABI
特集 ❁ 読書の効用
2015年2月15日発行
〈編集・発行人〉北口 克彦
〈発行所〉株式会社三省堂
〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14
電話 03(3230)9446〈編集〉／9551〈営業〉
〈WEBサイト〉http://tb.sanseido.co.jp/
デザイン 宮内 佑／表紙イラスト 沢田 藍子／ひと図鑑イラスト 藤塚 尚子

架空の本の書名を考えよう

ーどの本を読みたくなったかなー

ミニアクティビティ

時間 約30分

手順

❶ 架空の本の書名を考える。

条件1
キーワードの中から1つ以上のことばを選んで使う。
〈キーワードの例〉
チョコレート／かぶとむし／思い出／星／幸せ

条件2
本の内容について、次の事柄をイメージしてから作る。
A 誰向けの本なのか（対象） 例：幼稚園児向け、科学者向け など
B どのジャンルの本なのか（分野）
例：絵本、図鑑、辞書、推理小説 など ※十進分類法などを考えさせる活動を入れてもよい。
C いくらくらいの価格の本なのか（価格）
A・B・C以外にも、ストーリーや本の体裁などについて考えるのもよい。

❷ 考えた書名を発表する。
例：「かぶとむし大図鑑」「空飛ぶチョコレート」「勇太の思い出物語」「星はどこから来たの？」「星の一生」「星たちのささやき」
❸ 気になった書名について、条件2のA・B・Cについて質問し合う。（内容などを探るクイズ形式にしてもよい）
❹「いちばん読んでみたいと思った書名」コンテストを行う。

書名づくりのコツ
〈基本1〉本の内容を端的に表す
〈基本2〉本の中の具体的なモノやコトを使う
〈上級〉比喩や倒置などの技法を使う
〈上級〉問いかけ風にする
〈裏技1〉内容とのギャップをあえてつくる
〈裏技2〉とても短い（長い）書名にする

ほかにも見つかったコツを紹介し合いましょう。

全国美術館博物館巡り

06｜東京都千代田区

千代田区立
日比谷図書文化館

明治41年設立の「旧・都立日比谷図書館」の伝統を継承しつつ、2011年に開館した、図書館機能にミュージアム機能、カレッジ機能を有した複合文化施設です。緑豊かな日比谷公園の一角に建つ三角形のユニークな建物内には図書フロアの本を持ち込めるカフェやレストランを併設。リラックスできるおしゃれな施設としても人気があります。情報交流の場「日比谷カレッジ」では、「学ぶを楽しむ。学びが広がる。都心の森の学び舎。」を合い言葉に、各種講座、セミナー、シンポジウムなどを展開。「読む・調べる・学ぶ・楽しむ・交流する・創造する」をコンセプトとする21世紀型の図書館です。

アクセス

- 東京メトロ丸の内線・千代田線「霞ヶ関駅」、都営地下鉄三田線「内幸町駅」、下車徒歩3分
- 〒100-0012
  東京都千代田区日比谷公園1-4
  03(3502)3340

ルネ・デカルト
René Descartes
1596-1650
〈フランス／哲学者〉

良書を読むことは、過去の最も優れた人びとと語り合うようなものである

近代哲学の祖として知られる。若くから語学・数学・哲学・法学・医学などの多様な学問を修めたのち、「世界という大きな書物」を求めて各地を旅した。実証的なもののみを真実と考えたデカルトは全てを疑い、真に疑いえないものとして「考える自分」に行き着く。それを出発点に、全ての人が真理を見いだすための方法を確立すべく思索を重ねた。

Q&A 6 QUESTION

ビブリオバトルって何?

ANSWER

ビブリオ(bibio)は「本」を意味するラテン語に由来することばで、バトル(battle)は「戦い」を意味する英語です。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」を合いことばにした書評ゲームとして、全国各地で注目されています。公式ルールは次の四点。

1 発表参加者が読んでおもしろいと思った本を持って集まる。
2 順番に一人五分間で本を紹介する。
3 それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを二～三分行う。
4 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか?」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを【チャンプ本】とする。

(http://www.bibliobattle.jp/koushiki-ruru より)

発表者は、レジュメやプレゼン資料などを使用せず、自分のことばだけで本の魅力を伝えます。楽しみながら互いの理解を深め、本の世界を広げるゲームです。

特集 ⚙「読書の効用」

岡山大学 教育学部 田中智生

“生きる力を育てる読書指導”

TOPIC

指導者にとっても学習者にとっても、ことばの学びをどのようにイメージするかは大きな課題である。細切れの知識や何に使うかわからない技能を、「教えることになっているから教える」というのでは教える方も学ぶ方も意欲が湧かない。

私は、教育という行為を、所属する社会の幸せ実現のために行う「環境構成」だと考える。「環境構成」という概念は、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」に用いられてきたもので、「保育の環境には、保育士等や子どもなどの人的環境、施設や遊具などの物的環境、そして、自然や社会の事象などがある。保育所は、こうした人、物、場が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう(中略)工夫して保育しなければならない。」(「保育所保育指針」厚生労働省、2008)という考え方である。これは中学校・高等学校で教科に分化しても通用する考え方ではないだろうか。

読むことの教育(広義の読書指導)の場合でいうと、社会という環境の中で読むという行為がどのように機能しているかを観察し、幸せ実現のためにより機能的に使えるように環境との関わりの中で学んでいくことだ。

例えば、機能の観察結果を次のようにまとめたとする。

❶調べたいことを資料によって明らかにするための読書
❷新たな情報や知識を獲得し、視野を広めるための読書
❸自分の考えを創るための読書
❹楽しみのための読書
　❹－1文学等虚構の世界に浸る(文学読書)
　❹－2関心のある分野について見聞を広める(情報読書)
❺人間関係を創造するための読書(感動を共有する読書)
❻伝達情報を受け取るための読書

この内、❹－1について見ていくと、物語・小説に出てくる登場人物や出来事のおもしろさに興味を持つ段階、ストーリーの展開に興味を持つ段階、生活経験とのつながりに関心を持つ段階、ストーリーを生き生きとさせる表現に関心を持つ段階、作品に込められたメッセージに関心を持つ段階など、読み手の発達と出会う作品との関係において働かせる反応(読み方)が変わってくる。そのことを踏まえ❸や❺の機能と絡めて授業を構想すると、生活場面で生じる読むことの活用場面を構成することができる。このように読むことの授業を指導者が意識して環境構成し、学習の意味を活動文脈の中で発見させることが、学びのイメージを共有していくことにつながる。

読むことの教育を、与えられた作品を読解することだけに閉じ込める授業は限界を迎えている。生きていく力として、どんな作品・情報があるかに目を配り、仲間とともに様々な受容の可能性を探り、そのことを通して他者と出会い、自らの変革を伴いつつ社会を描いていく、そういう読むことの教育を追究したい。

BOOK GUIDE

今回は、「読書」に関連して、著作権教育について理論と実践を扱った書籍『著作権教育の第一歩』と、自立した読み手を育てるためのさまざまな読書活動を紹介した『読書家の時間』の2冊を取りあげています。

01 先生のための入門書

著作権教育の第一歩

川瀬真 監修、大和淳・野中陽一・山本光 編
三省堂 2013
B5判／144ページ　1,900円＋税
ISBN978-4-385-36498-8

「どこまでが許諾不要で、どこからが違法?」――専門性が高く難解という印象があり、敬遠されがちな著作権教育ですが、著作権は情報化社会を生きる子どもたちが身につけておくべき重要なリテラシーのひとつです。

「中学校における『引用』の授業(国語科)」「問題事例から学ぶ著作権教育(技術・家庭科)」など、理論と実例モデルで実践方法をわかりやすく紹介した本書は、著作権教育の第一歩を踏み出す後押しとなる入門書です。

02 読書家の時間

プロジェクト・ワークショップ編
新評論2014 A5判／264ページ　2,000円＋税
ISBN978-4-7948-0969-8

教室の読書環境を整えるための「図書コーナーづくり」、友だちや親と同じ本を読む「ペア読書」、読む力が同程度の相手と読む「読書パートナー」、グループで同じ本を読んで語り合う「ブッククラブ」など、中学校でも活用できる多様な読書活動を提案。読書が子どもたちの日常となり、読む力を伸ばしていく実践が紹介されています。読書指導への活力が得られる1冊です。

三省堂 SANSEIDO 三省堂 SANSEIDO 三省堂 SANSEIDO 三省堂 SANSEIDO 三省堂 SANSEIDO 三省堂 SANSEIDO 三省堂 SANSEIDO 三省堂 SANSEIDO 三省堂 SANSEIDO 三省堂 SANSEIDO 三省堂 SANSEIDO